



## にとべいなぞう 新渡戸稲造は、どんな人だったの



明治・大正・昭和時代にかけて、教育者・国際人  
として活躍した人だよ。

### 札幌農学校で学び、キリスト教徒になった

新渡戸稲造（1862～1933年）は南部藩士の子として、盛岡で生まれました。父親が早く亡くなったので、母親の手一つで育てられました。15歳で札幌農学校に入り、内村鑑三らと学びました。札幌農学校は、クラーク博士の影響が残っていたので、鑑三とともにキリスト教徒になりました。19歳で北海道開拓使につとめ、開拓使が廃止されると、東京に出ました。1884年からアメリカ・ドイツの大学で、農業経済・農業政策などを学びました。

### 教育者・国際人として活躍した

帰国後は、札幌農学校の助教授、台湾総督府（日本が台湾を統治するためにおいた役所）の殖産局長、京都帝国大学教授、第一高等学校校長を経て、東京帝国大学の教授になり、植民政策の講座を担当しました。1918年に、東京女子大学の初代学長になり、1920～1926年には、国際連盟の事務局次長をつとめ、その後は、帝国学士院会員や貴族院議員をつとめました。

### 「太平洋のかけ橋」になろうとした

稲造は、英文の著書「武士道 日本の魂」を出すなど、日本の長所や思想を外国に紹介するとともに、外国の長所を取り入れて、すぐれた文化をつくり上げよう、と考えていました。そして、自分が日本とアメリカを結ぶ「太平洋のかけ橋」になろう、と考えました。また、キリスト教徒として、国際平和を主張しました。